

京 田 辺 市

(単位：m³/日)

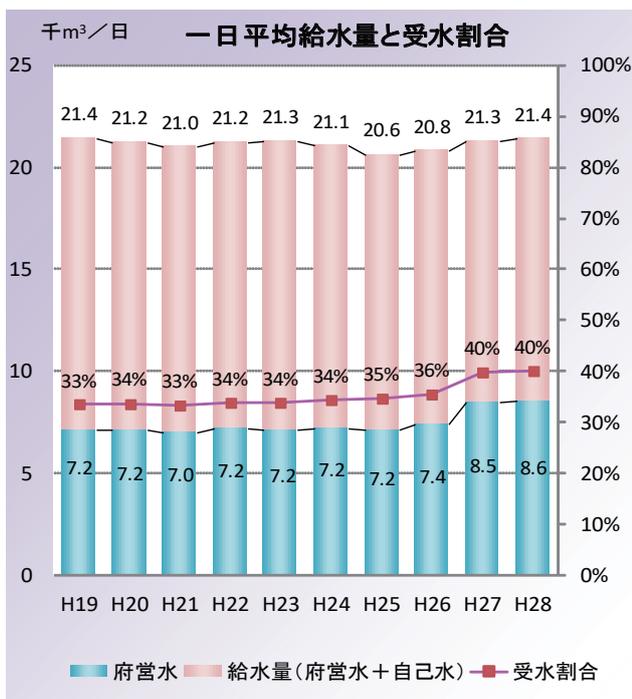
資料編 第2章関連資料

浄水場						水源						配水能力 ※2
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要			
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1	一日平均汲上量(H28実績)	状況	
薪浄水場	S63	16,623	急速ろ過消毒	OUT	済	浜新田取水井	浅井戸	S60	5,300	4,306	浚渫により当面安定取水可	13,230
						藪ノ本取水井	浅井戸	H3	4,320	3,983	浚渫により当面安定取水可	
						田辺第1取水井	伏流水	S32			水量低下のため休止	
						田辺第2取水井	伏流水	S40	480	378	取水量低下のため改修方法検討中	
						薪第1取水井	深井戸	H19	1,680	1,382	取水量低下のため年々減少傾向	
						薪第2取水井	深井戸	H21	2,200	1,430	当面安定取水可	
計		16,623				計		13,980	11,487		13,230	
大住浄水場	S37	4,319	急速ろ過消毒	しない	計画無	大住第1取水井	深井戸	S60	264	186	取水量低下のため年々減少傾向	1,778
						大住第2取水井	深井戸	H14	1,700	1,623	当面安定取水可	
						大住第3取水井	深井戸	H7	264	226	取水量低下のため年々減少傾向	
						計		4,319			計	
普賢寺浄水場	S47	558	消毒	OK	不要	普賢寺取水井	深井戸	S46	240	131	取水量低下後安定	240
計		558				計		240	131		240	
合計		21,500				合計		16,448	13,653		15,248	

※1 平成28年度末の能力

※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力(作業用水を考慮)

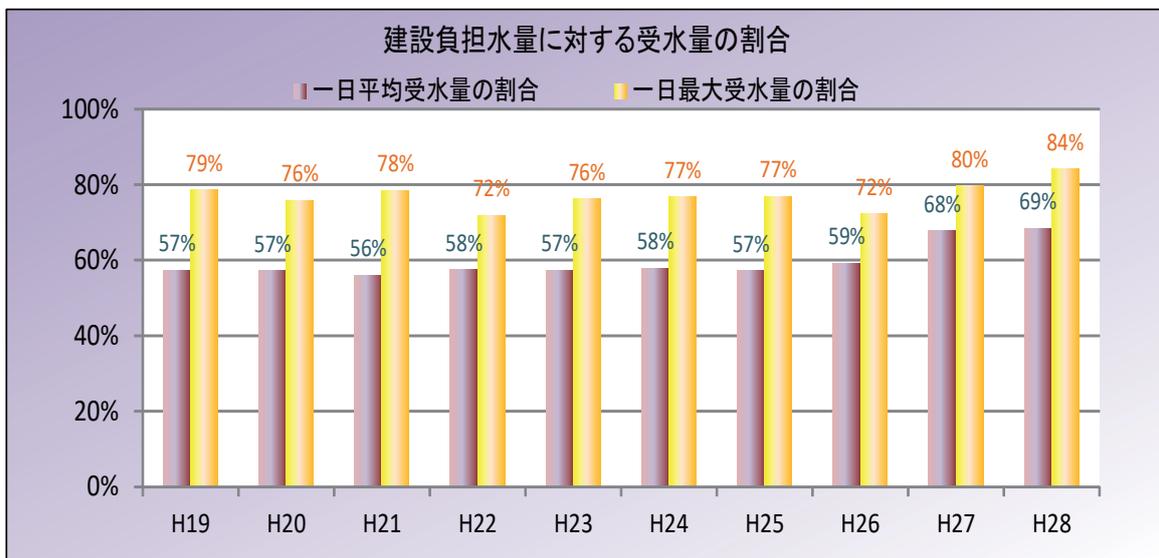
給水区域の状況		①ブレンド区域 ②府営水区域 ③自己水区域		
今後の受水の考え方		ビジョン策定時(H23)	料金改定時(H25)	ビジョン改定時(H29)
平均	①ブレンド区域	安価な自己水を極力活用し給水	同左	最大給水量の受水割合で受水
	②府営水区域	需要に応じて府営水を給水	同左	最大給水量の受水割合で受水
最大	①ブレンド区域	需要変動を安価な自己水により吸収し、不足分を府営水で対応	同左	未利用の関西文化学術研究都市の土地利用と合わせて、府営水区域を優先的に受水
	②府営水区域	需要変動に応じて府営水を給水	同左	土地利用開始時から給水量を段階的に増量し、土地利用完了時に12,500m ³ /日を全量受水



(単位: m³/日)

	配水能力 ①	一日平均給水量 (H28実績) ②	施設 利用率 ②/①
全 体	27,748	21,402	77%
自己水	15,248	12,838 (60%)	84%
府 営 水	12,500	8,564 (40%)	69%

※ 府営水 : 府営水道における測定水量
 ※ 自己水 = 全体 - 府営水



特 記 事 項	
(受水量)	府営水区域である関西文化学術研究都市南田辺西地区(約60ha)と南田辺東地区(約40ha)の開発による新たな水需要を含めて、建設負担水量(12,500m ³ /日)全量を受水する予定
(施設)	老朽化した大住浄水場の一部機能を薪浄水場へ統合し、大住浄水場はダウンサイジングして水源地として整備 平成39年度までに浄水及び配水池施設の耐震化を完了、基幹管路については耐震化率78%を目指す
(見通し)	木津系2市1町の人口は増加しており、将来水需要においても一定の水量は見込めると考えている

資料編
第2章 関連資料

木 津 川 市

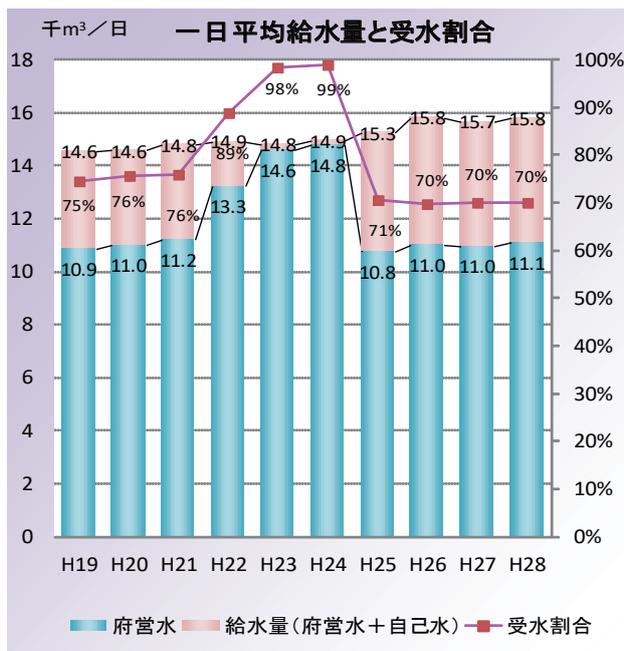
(単位：m³/日)

浄水場					水源					配水能力 ※2		
名称	稼働年	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年	概要			
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1		一日平均汲上量 (H28実績)	状況
宮ノ裏浄水場	H25	5,300	薬品沈澱 急速ろ過 消毒	OK	済	第1取水井	浅井戸	S11	1,600	1,560	水量・水質的にも安定	5,300
						第2取水井	浅井戸	S41	2,000	2,262	水量・水質的にも安定	
						第3取水井	浅井戸	S47	1,800	1,190	水量・水質的にも安定	
						第4取水井	深井戸	S61			廃止	
計		5,300				計			5,400	5,012		5,300
合計		5,300				合計			5,400	5,012		5,300

※1 平成28年度末の能力

※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力

給水区域の状況		①ブレンド区域	②府営水区域	③自己水区域
今後の受水の考え方		ビジョン策定時 (H23)	料金改定時 (H25)	ビジョン改定時 (H29)
平均	①ブレンド区域	平成15年度頃から旧市街地に対して府営水をブレンドして給水 学研開発（木津南）と旧市街地の需要に応じて府営水を極力活用し、残りを自己水で対応	同左	城山台地域は計画人口10,000人で、増加分は府営水での対応を現時点では考えているが、今後、木津地区の水需要の伸びも見込まれるため、配水区域の見直し等自己水の確保を検討中
	②府営水区域	学研開発（木津川台・相楽）の需要に応じて府営水を給水	同左	現況のまま府水での対応を考える（兜台、相楽台、木津川台、梅美台、州見台地域）
最大	①ブレンド区域	需要変動を府営水・自己水で対応	同左	同上
	②府営水区域	新たな学研開発（木津中央）により水需要が増加するため、府営水で対応 自己水能力のみでは対応しきれず、水需要の増加に対して府営水を増量して対応 ただし、現行基本水量では不足		

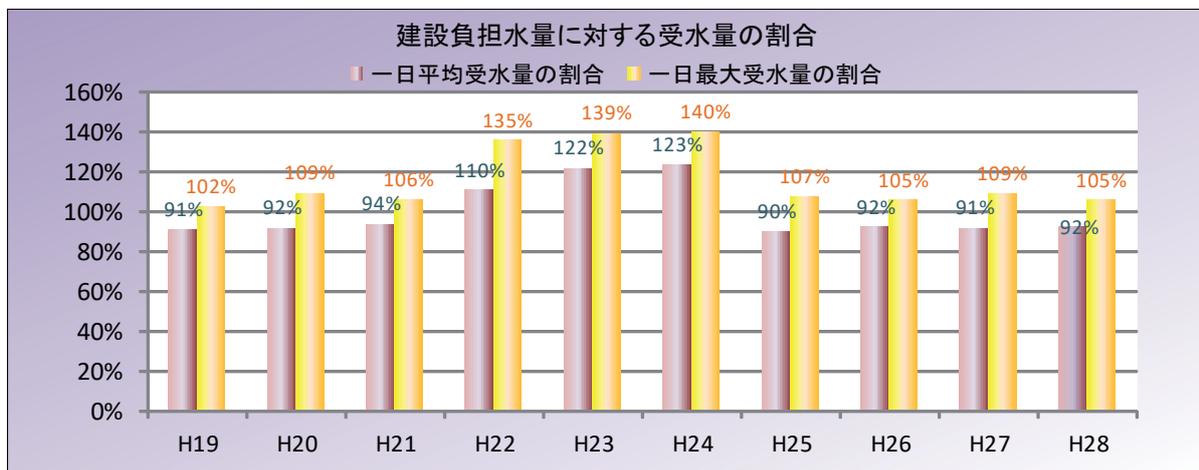


(単位: m³/日)

	配水能力 ①	一日平均給水量 (H28実績)		施設 利用率 ②/①
		②	(割合)	
全 体	17,300	15,829		91%
自己水	5,300	4,734	(30%)	89%
府営水	12,000	11,095	(70%)	92%

※ 府営水：府営水道における測定水量

※ 自己水＝全体－府営水



特 記 事 項	
(受水量)	木津川市(木津地区)の府営水の受水割合は約70%、今後の府営水道料金の動向を見据え受水割合を検討 平成22年度の宮ノ裏浄水場改修の際に井戸を一つ減らして、府営水を増量(取水能力7,700m ³ /日→5,300m ³ /日)
(施設)	自己水施設の予備力は0%となっているが、危機管理上30%程度必要と考えている 市内各浄水場利用率を100%に近づけるため、旧町単位の配水エリアの見直しを検討
(見通し)	今後、水道管の修繕や更新が必要となり、中長期的な水道事業の経営状況はかなり厳しいものとなる

資料編
第2章関連資料

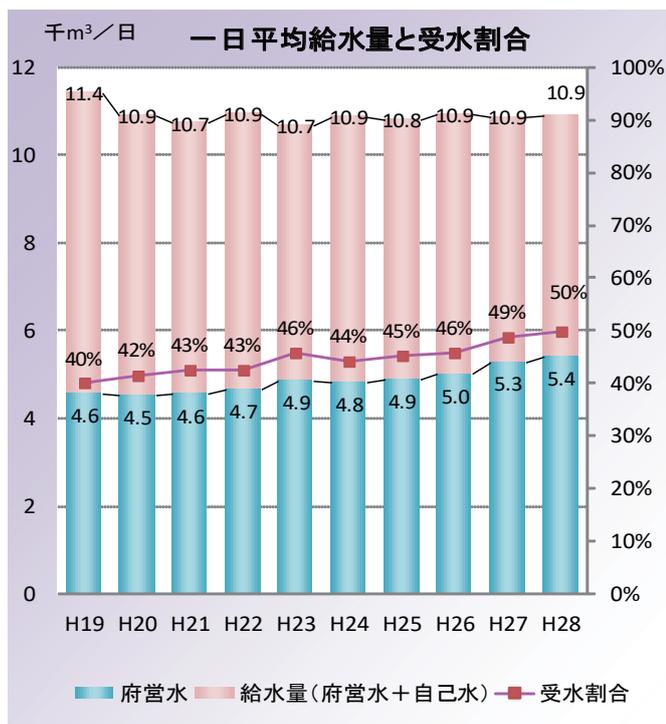
精 華 町

(単位: m³/日)

資料編
第2章関連資料

浄水場						水源					配水能力 ※2	
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要			
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1	一日平均汲上量 (H28実績)		状況
北稲浄水場	S34	5,400	消毒	しない	計画無	北稲取水ポンプ1-1	深井戸	S33	1,814	1,037	安定状況	5,400
						北稲取水ポンプ1-2	深井戸	S62	3,405	1,930	安定状況	
						北稲取水ポンプ2号	深井戸	H4	3,569	1,725	安定状況	
旭第1浄水場	S54	急速ろ過消毒	しない	計画無	旭第1号取水ポンプ	深井戸	S54	294	54	安定状況		
計		5,400				計			9,082	4,746		5,400
柘榴浄水場	H9	500	急速ろ過消毒	OK	不要	柘榴取水ポンプ1	深井戸	S47	1,434	208	安定状況	500
						柘榴取水ポンプ1-1	深井戸	H9	1,814	229	安定状況	
計		500				計			3,248	437		500
合計		5,900				合計			12,330	5,183		5,900

給水区域の状況	①ブレンド区域 ②府営水区域 ③自己水区域			
	ビジョン策定時 (H23)	料金改定時 (H25)	ビジョン改定時 (H29)	
平均	②府営水区域	学研開発(光台・精華台)の需要に応じて府営水を給水 →府営水区域の過去5カ年の平均給水量から推計 但し、人口増加が見込まれるため、伸び率2%を見込む	同左 →府営水区域の既設開発と新たな開発(下狛京阪)に伴い人口増加が見込まれるため、自己水を差引いた給水量を推計	同左
	③自己水区域	北稲浄水場は府営水区域と自己水区域に高低差があり現段階ではブレンドすることが困難 →自己水区域における過去5カ年の平均給水量から推計	同左 →自己水区域における人口増加が見込まれない為、過去の平均値から推計	同左
最大	②府営水区域	需要変動に応じて府営水を給水 →過去5カ年の平均給水量と最大給水量の割合から推計	同左 →府営水区域の既設開発と新たな開発(下狛京阪)に伴い人口増加が見込まれるため、自己水を差引いた給水量を推計	同左
	③自己水区域		同左 →自己水区域における人口増加が見込まれない為、認可値から推計	同左

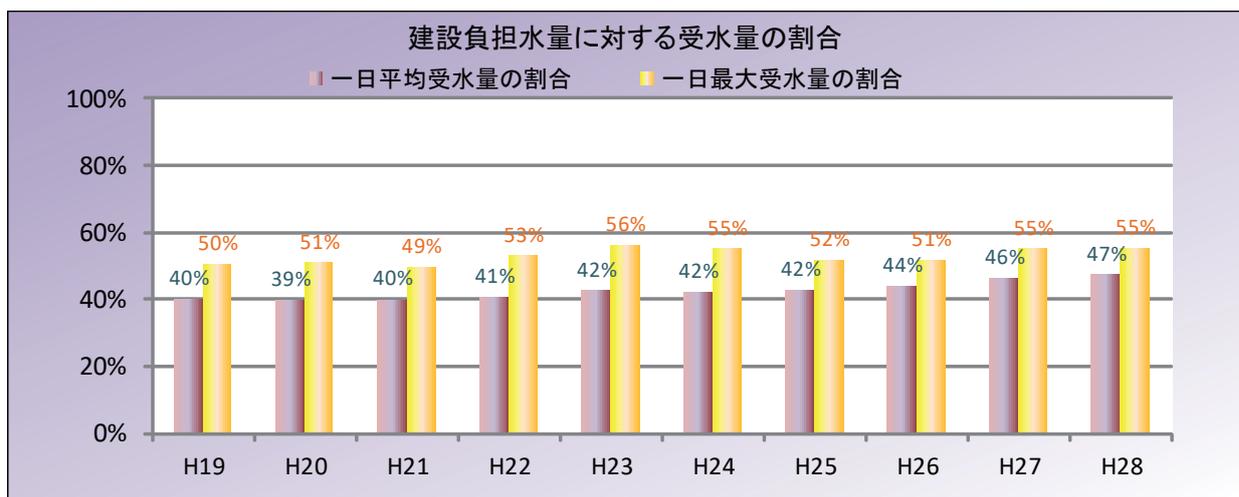


(単位: m³/日)

	配水能力 ①	一日平均給水量 (H28実績)		施設 利用率 ②/①
		②	(割合)	
全 体	17,400	10,885		63%
自己水	5,900	5,469	(50%)	93%
府 営 水	11,500	5,416	(50%)	47%

※ 府営水 : 府営水道における測定水量

※ 自己水=全体-府営水



特 記 事 項

(受水量)	府営水導入時における既存水系の住民に対して、地下水の維持存続を明言している立場も有り、現在も府営水系と自己水系のブレンドはしていない為、今後も自己水系として必要な水量を確保
(施設)	水需要の減少を踏まえるも、リスク低減の観点から自己水施設の確保も必要 自己水施設稼働率の状況を勘案しながら適正な施設規模を維持
(見通し)	学研開発エリアにおける企業進出は現在も継続しており、将来の府営水需要の予測は困難

向 日 市

(単位：m³/日)

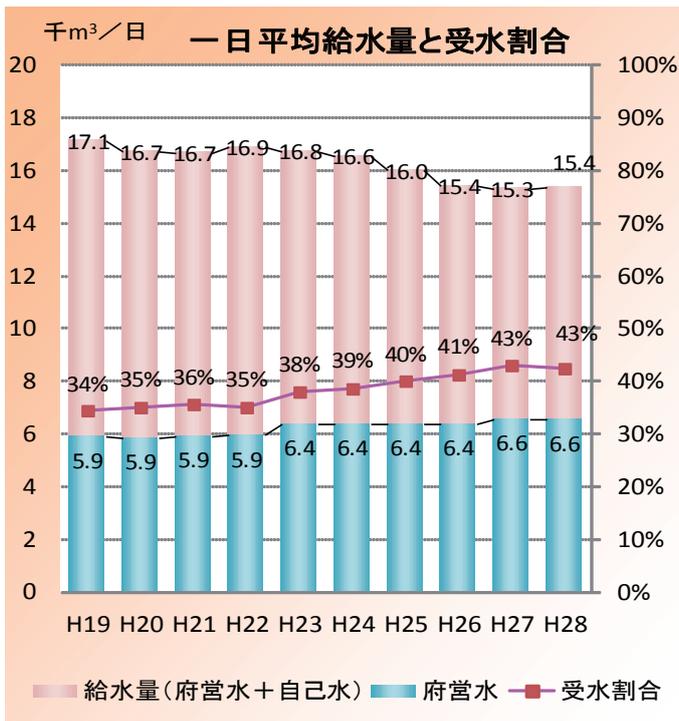
浄 水 場					水 源					配水能力 ※3		
名 称	稼働年月	概 要		耐 震 化		井 戸 名 種 別	稼働年月	概 要				
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策			実能力※1	一日平均汲上量 ※2		状 況	
物集女西浄水場	S45.2	21,000	薬品沈澱 急速ろ過 消毒	OUT	計画有	5	深井戸	S59.12		8,840	ポンプ性能劣化による取水量減少	14,400
						7	深井戸	S63.6	1,590		浚渫により当面安定取水可	
						9	深井戸	S54.9			揚水量の減少により休止	
						10	深井戸	S57.8	1,580		浚渫により当面安定取水可	
						11	深井戸	S61.3	1,700		浚渫により当面安定取水可	
						12	深井戸	S59.8	1,560		浚渫により当面安定取水可	
						14	深井戸	H3.3	1,700		浚渫により当面安定取水可	
						15	深井戸	H6.4	1,630		浚渫により当面安定取水可	
						16	深井戸	H2.1	1,460		浚渫により当面安定取水可	
						17	深井戸	H4.3	1,560		浚渫により当面安定取水可	
						18	深井戸	H5.3			揚水量の減少により休止	
						19	深井戸	S62.3	1,680		浚渫により当面安定取水可	
						20	深井戸	H8.4	1,420		浚渫により当面安定取水可	
21	深井戸	S54.3		ポンプ性能劣化による取水量減少								
22	深井戸	H元.3	1,560	浚渫により当面安定取水可								
計		21,000			計			17,440	8,840		14,400	
合 計		21,000			合 計			17,440	8,840		14,400	

※1 平成28年度末の能力

※2 平成28年度に稼働している取水井戸の総量の日割

※3 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力（急速ろ過池3，600m³/池×4）

給水区域の状況	①ブレンド区域 ②府営水区域 ③自己水区域			
	今後の受水の考え方	ビジョン策定時 (H23)	料金改定時 (H25)	ビジョン改定時 (H29)
平均	①ブレンド区域	基本水量に対する府営水の受水量について、施設利用率60%になるよう段階的に増量する方向で努力	→将来的には受水割合50%を目指す	受水割合50%程度を維持
最大	①ブレンド区域	需要変動を自己水で対応	同左	需要変動は基本的に自己水で対応するが、浄水場工事時等の不足水量は建設負担水量内で府営水を増量

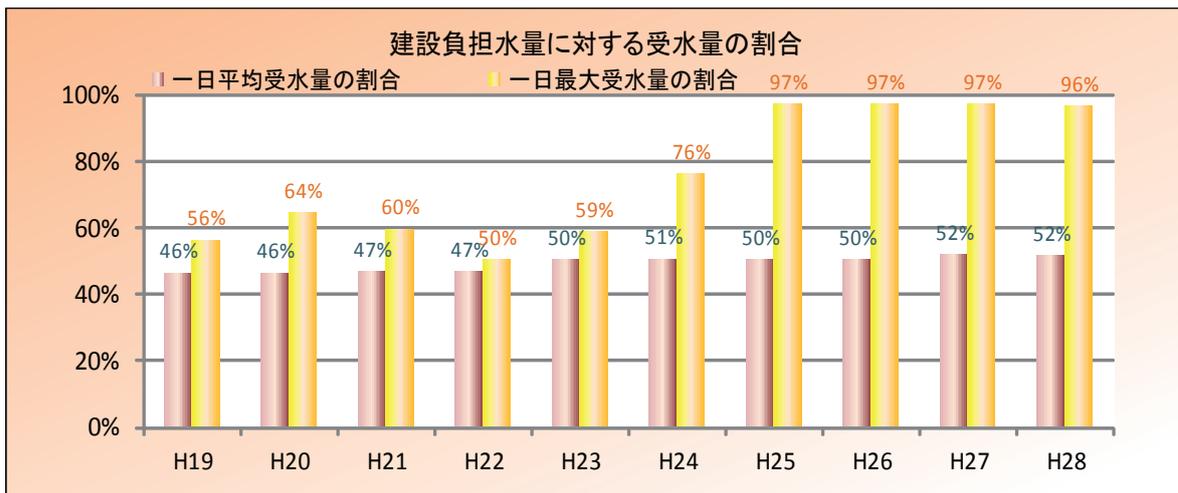


(単位：m³/日)

	配水能力	一日平均給水量 (H28実績)		施設 利用率
	①	②	(割合)	②/①
全 体	27,100	15,395		57%
自己水	14,400	8,840	(57%)	61%
府営水	12,700	6,555	(43%)	52%

※ 府営水：府営水道における測定水量

※ 自己水＝全体－府営水



特 記 事 項	
(受水量)	本市では、桂川・洛西口新市街地に大型商業施設や企業が進出するとともに住宅の立地が進むことから、今後数年間は人口増加が予想されるが、節水機器の普及や性能向上により、給水量の増加は見込めない
(施設)	浄水場及び配水池の耐震化は平成31年度完了予定 基幹管路は概ね30年かけて耐震化を進める予定
(見通し)	人口及び給水量の動向を注視しつつ、自己水及び府営水の適切なあり方について慎重に検討を始める必要が出てくると認識

資料編
第2章 関連資料

長岡京市

(単位：m³/日)

浄水場						水源					配水能力 ※2	
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要			
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1	一日平均汲上量 H28実績		状況
東第2浄水場	S57.5	16,000	急速ろ過消毒及び紫外線処理	OK	一部済	東1号井戸	深井戸	S55.3	14,000	11,093	水質が懸念されるため休止	14,000
						東4-1号井戸	深井戸	S48.11			安定状況	
						東4-2号井戸	深井戸	H6.1			安定状況	
						東5-2号井戸	深井戸	S54.3			安定状況※3	
						東6号井戸	深井戸	S51.4			安定状況※3	
						東13-1号井戸	深井戸	H3.8			安定状況	
						東13-2号井戸	深井戸	H4.7			安定状況	
東14号井戸	深井戸	H7.1	安定状況									
計		16,000				計			14,000	11,093		14,000
合計		16,000				合計			14,000	11,093		14,000

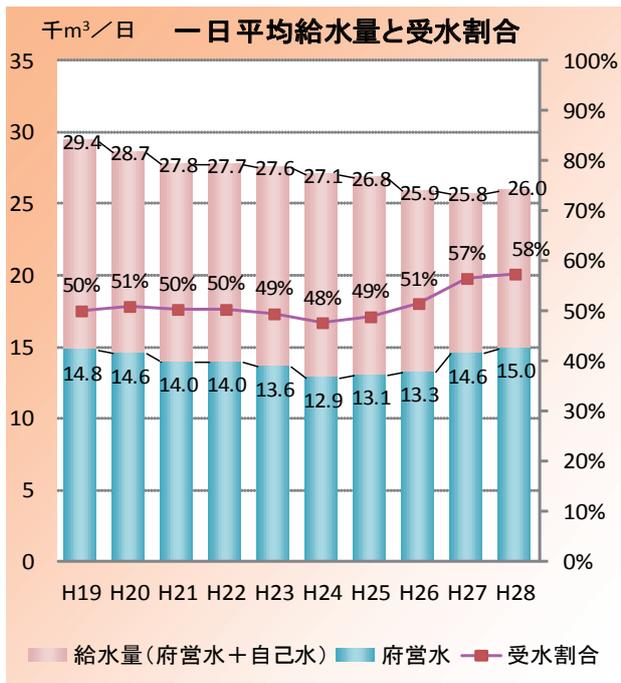
※1 平成28年度末の能力

※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力

※3 平成28年12月より再稼働

資料編 第2章関連資料

給水区域の状況		①ブレンド区域	②府営水区域	③自己水区域
今後の受水の考え方		ビジョン策定時 (H23)	料金改定時 (H25)	ビジョン改定時 (H29)
平均	①ブレンド区域	市民からの「出来る限り地下水を使用してほしい」との要望に答えるため、企業5社へは100%府営水を、一般市民向けにはブレンド水を給水 → 「長岡京市水道事業懇談会」で示された一般市民向けブレンド率50%が確保できる自己水施設能力(概ね13,800m ³ /日)を超える水量について、府営水道の受水を予定	同左	同左 → 大口事業所(5社)に府営水のみを給水し市民向けの地下水ブレンド率は50%を下回らないよう運用し将来も同様とする
	②府営水区域	水需要は減少傾向であり受水量についても減少すると予測		
最大	①ブレンド区域	需要変動の殆どを府営水で対応 → 自己水を最大限活用(14,000m ³ /日)し、残りを府営水で対応	同左	同左 → 自己水を最大限活用し市民向けの地下水ブレンド率に配慮
	②府営水区域			

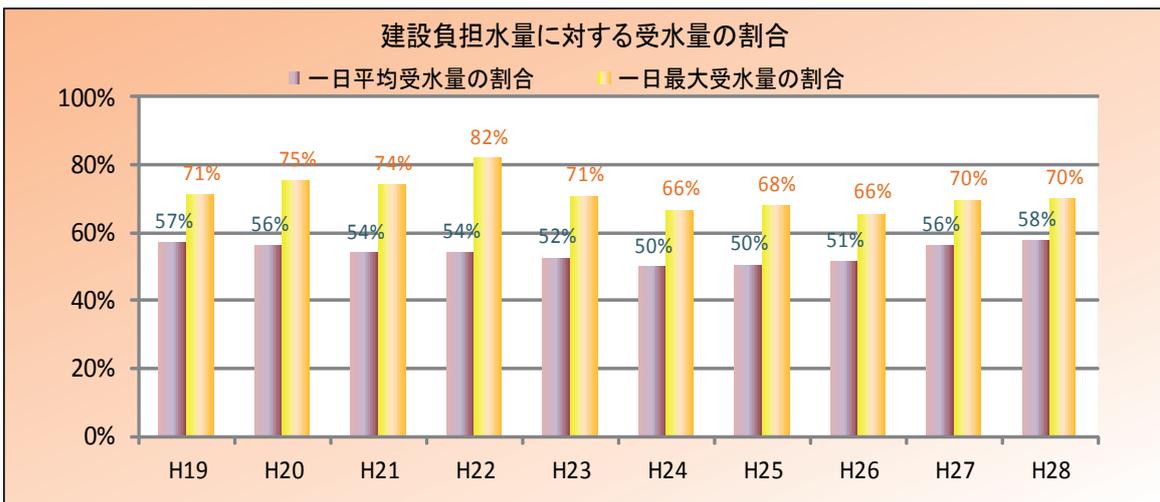


(単位: m³/日)

	配水能力 ①	一日平均給水量 (H28実績)		施設 利用率 ②/①
		②	(割合)	
全 体	40,000	25,987		65%
自己水	14,000	11,028	(42%)	79%
府営水	26,000	14,959	(58%)	58%

※ 府営水 : 府営水道における測定水量

※ 自己水=全体-府営水



特 記 事 項	
(受水量)	長岡京市水道事業懇談会提言に基づき、水道施設の集約化・効率化を実施済みであることから、受水割合は変えず、一貫して50%を基本方針とした受水を予定
(施設)	受水割合を50%として施設の整備と集約化を実施してきており、次期長岡京市水道ビジョンの計画期間内(平成32~41年度)で浄水場の更新を検討しているが、この受水割合と予備力を基本とした適正な施設規模の検討を行う予定
(見通し)	平成32年度からの上記計画期間内では多額の費用が見込まれることから水道事業経営は厳しい状況になると予測。しかし、適正な料金算定と更なる効率化の取組により、中長期的な見通しにおいても安定した事業運営が図れると見込んでいる

資料編
第2章 関連資料

大 山 崎 町

(単位：m³/日)

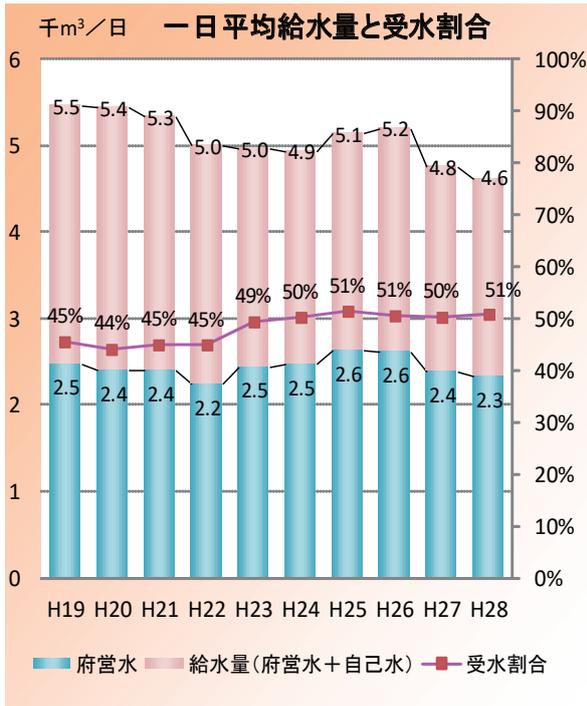
浄水場						水源					配水能力 ※2	
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要			
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1	一日平均汲上量 (H28実績)		状況
宝本浄水場	S44.10	3,080	急速ろ過消毒	OUT	未	2号	深井戸	H4.11	1,560	397	量的にも水質的にも安定	3,080
						5号	深井戸	S44.10	1,560	397	量的にも水質的にも安定	
計		3,080				計			3,120	794		3,080
夏目浄水場	S49.2	5,000	急速ろ過消毒	OUT	未	8号	深井戸	S49.2	1,440	389	量的にも水質的にも安定	5,000
						10号	深井戸	H7.7	1,440	695	量的にも水質的にも安定	
						11号	深井戸	S55.6	1,680	345	量的にも水質的にも安定	
						14号	深井戸	H13.4	1,680	830	量的にも水質的にも安定	
計		5,000				計			6,240	2,259		5,000
合計		8,080				合計			9,360	3,053		8,080

※1 平成28年度末の能力

※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力

給水区域の状況		①ブレンド区域	②府営水区域	③自己水区域
今後の受水の考え方		ビジョン策定時 (H23)	料金改定時 (H25)	ビジョン改定時 (H29)
平均	①ブレンド区域	府営水の導入経緯や町民の地下水を利用したいとの強い要望の中で、受水割合を約50%として府営水を受水	水道施設整備を進めつつ、受水割合を約50%として府営水を受水	平成24年度に策定した、水道施設整備計画に基づいた施設整備を進めつつ、府営水道の導入経過や町民の地下水利用の強い要望の中で、受水割合を概ね50%として府営水を受水
最大	①ブレンド区域	需要変動を府営水と自己水で対応	同左	同左

資料編 第2章 関連資料

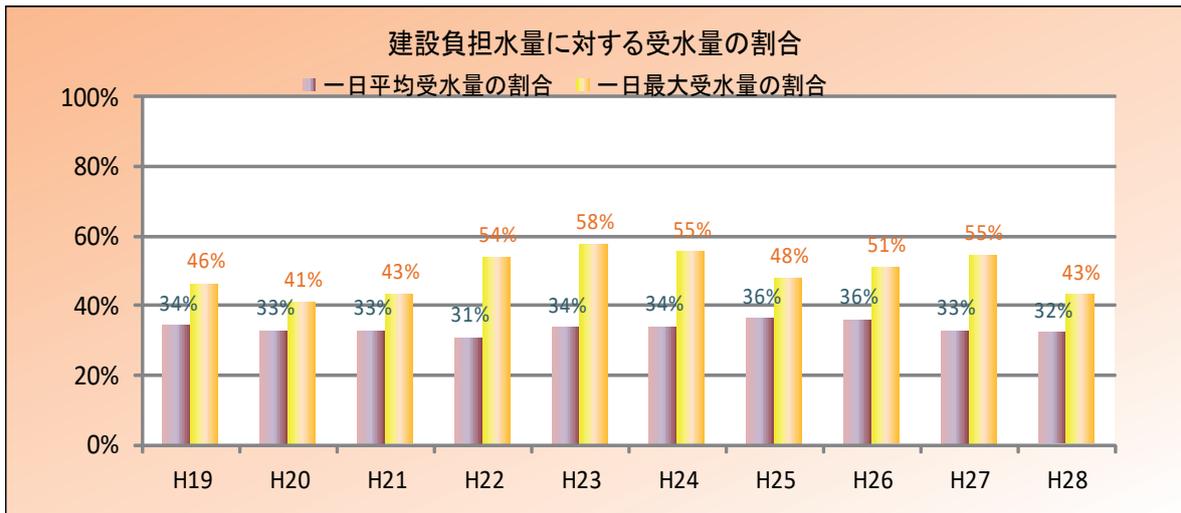


(単位: m³/日)

	配水能力 ①	一日平均給水量 (H28実績)		施設 利用率 ②/①
		②	(割合)	
全 体	15,380	4,616		30%
自己水	8,080	2,270	(49%)	28%
府営水	7,300	2,346	(51%)	32%

※ 府営水 : 府営水道における測定水量

※ 自己水=全体-府営水



特 記 事 項	
(受水量)	府営水道の導入経過や住民の地下水への強い要望の中で、受水割合は50%としている
(施設)	水需要が減少する中で、府営水道の受水ルート有二系統としたことにより、安定供給の確保を図り、さらに、自己水である地下水においても耐震性能が低い宝本浄水場を廃止し、浄水場を夏目浄水場1箇所にダウンサイジングを行う。 耐震化向上に向けた送・配水管の更新を進める。
(見直し)	現在の施設整備計画について、施設全体の効率的な運用や財政計画の見直しを行う中で、受水割合についても検討

資料編
第2章関連資料